

八戸うみねこマラソン

親睦深め結束強く

参加団体、貴重な機会に

八戸市で18日行われた第44回八戸うみねこマラソン全国大会。最も短い3キロを中心に学校や企業が多数エントリーし、出場者が互いを鼓舞しながら完走を目指した。「結束を強める場となっている」「節目を祝い、飛躍につなげたい」。参加した団体にとって大会は、仲間との団結や親睦を深めることにも、さらなる発展に向け決意を新たにする機会となっている。

八戸学院光星高等学校は、部員ら約20人が参加。男子主将で2年松田一の助さん（16）は「走っている最中に部員同士で声援と手をかけ合った。大会に参加し、

団結を高めることができたと手応えを感じる。同市の自動車教習所八戸3号館に出場した。モータースクールは、社員

の健康増進と結束強化のため毎年エントリー。今回は、

社員ら18人が校名をプリントしたTシャツを着用して

3キロに出場した。営業推進課長の徳田悠希さん（42）は「校名を出すことで多くのの方にモーター

スクールを知ってもらえる。地域とのつながりを深める機会にもなる」と意義を強調する。

小学生のアイスホッケーチーム「八戸南ジュニア」は、チームの団結や親睦を

深める機会として20年以上にわたり毎年参加。今年も

約30人が3キロを走り切った。3回目の出場という駒

井隆之介さん（11）市立港小6年1組は「小学生最後のうみねこマラソンを、南シ

ユニアのみんなと本気で走れて良かった」と達成感をにじませた。

節目を迎える学校や企業は、さらなる飛躍に願いを込めて出場した。

創立50周年を迎える八戸にも意欲を見せた。

期待を高める。

創業50周年のブライフーズ（同市）は、店員外を含め社員33人が出場。互いに声をかけ合いながら3キロを走破した。

同社五工場改善課課長

代理の佐々木文男さん（56）は「節目の年に全員でゴールできてうれしい。来年はより大人数で出場し、社名や商品名を多くの人に知ってもらえたら」と企業のPRにも意欲を見せた。



5キロを走り終えて互いの健闘をたたえ合う
八戸学院光星高等学校部の選手ら